

令和7年9月2日

予察情報7-16

病害虫発生予察情報 第6号

富山県農林水産総合技術センター所長

9月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期	
水稲	いもち病（穂いもち）	やや少ない	—	野菜	白ねぎ	さび病	少ない	—
	斑点米カメムシ類		—			軟腐病	多い	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	並	—			黒斑病・葉枯病	並	—
	アカスジカスミカメ	やや多い	—			ネギアザミウマ	多い	—
	トゲシラホシカメムシ	多い	—			ネギハモグリバエ	やや少ない	—
	クモヘリカメムシ	やや多い	—			シロイチモジヨトウ	多い	—
	ツマグロヨコバイ	多い	—	果樹	果樹全般	カメムシ類	少ない	—
	ヒメトビウンカ	並	—			りんご	褐斑病	やや少ない
	セジロウンカ	多い	—		炭疽病		やや少ない	—
	トビイロウンカ	並	並		ハダニ類		多い	—
コブノメイガ	少ない	—	カイガラムシ類		少ない		—	
大豆	紫斑病	やや多い	—		シンクイムシ類	多い	—	
	フタスジヒメハムシ	多い	—		日本なし	黒星病	やや少ない	—
	アブラムシ類	やや多い	—			ハマキムシ類	多い	—
	ハスモンヨトウ	やや少ない	—			ナシヒメシンクイ	多い	—
	大豆吸蜜性カメムシ類	多い	—			ハダニ類	多い	—
	ハダニ類	多い	—	カイガラムシ類	少ない	—		
野菜全般	ハスモンヨトウ	やや少ない	—	ぶどう	べと病	やや少ない	—	
	ネキリムシ類	やや多い	—	かき	フジコナカイガラムシ	やや少ない	—	
	タバコガ類	やや多い	—	もも	せん孔細菌病	少ない	—	
					灰星病	少ない	—	
花き球根				きく	きくのアブラムシ	やや少ない	—	
				花き全般	ハスモンヨトウ	やや少ない	—	
					タバコガ類	やや多い	—	

<p>発生量</p> <p>多い : 平年比 141%以上</p> <p>やや多い : 平年比 121%以上 140%以内</p> <p>並 : 平年比 80%以上 120%以内</p> <p>やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内</p> <p>少ない : 平年比 59%以下</p>	<p>予報時期</p> <p>早い : 平年値より 6 日以上早い</p> <p>やや早い : 平年値より 3～5 日早い</p> <p>並 : 平年値を中心として前後 2 日以内</p> <p>やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い</p> <p>遅い : 平年値より 6 日以上遅い</p>
<p>予報の根拠中の</p> <p>(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少なくなる要因</p> <p>(早発) : 発生が早くなる要因、(並) : 平年並になる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。</p>	

I 水 稻

1 いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

・ 8月20日調査の葉いもち発病株率は0%で、平年(0.0%)並であった。(±)

・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。(－)

・ 9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

・ 防除指針：33～34 ページ参照



図1 穂いもちり病穂

2 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0頭で平年(0.18頭)より少なく、確認地点率も0%で平年(5.1%)より低かった。(－)

・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

・ 農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類がみられる場合は追加防除を実施する。

・ 防除指針 43、45～46ページ参照

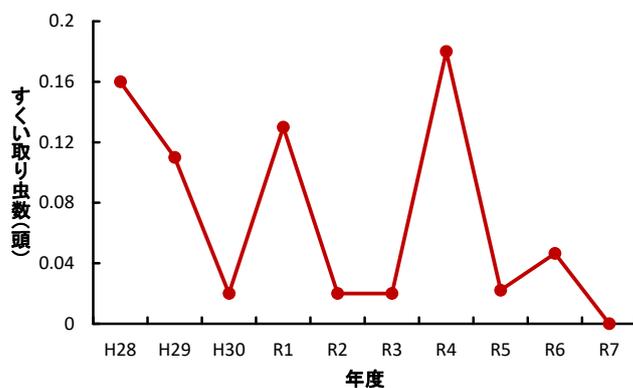


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメの本田すくい取り状況年次推移(8月20日調査)



図3 アカヒゲホソミドリカスミカメ

3 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.18頭で、平年（0.15頭）並、確認地点率は8.9%で平年（6.7%）よりやや高かった。（+）
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
 - ・ 防除指針：43、45～46ページ参照

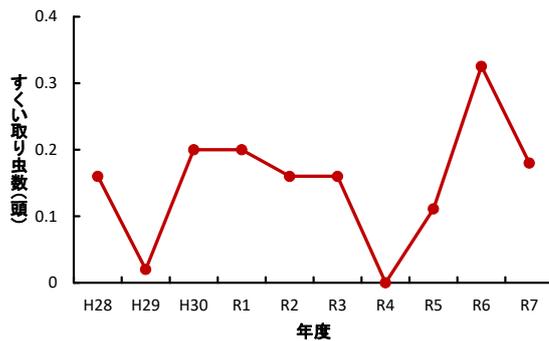


図4 アカスジカスミカメの本田すくい取り状況
年次推移（8月20日調査）



図5 アカスジカスミカメ

4 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.24頭で、平年（0.08頭）より多く、確認地点率は13.3%で平年（4.9%）より高かった。（+）
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずるとともに、本種が優先するほ場においては、有機リン系剤等で防除する。
 - ・ 防除指針：44～46ページ参照

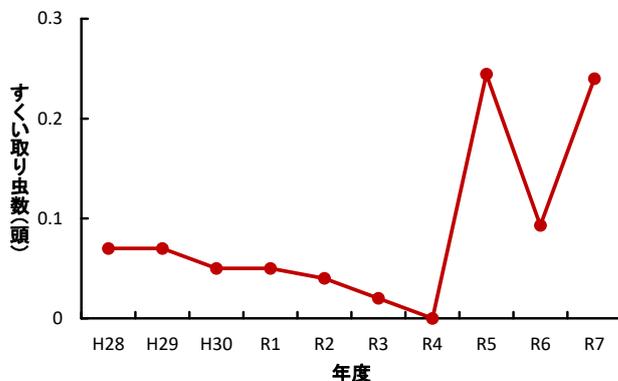


図6 トゲシラホシカメムシの本田すくい取り状況
年次推移（8月20日調査）



図7 トゲシラホシカメムシ

5 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.16頭で、平年（0.17頭）並、確認地点率は6.7%で平年（4.4%）より高かった。（+）
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
 - ・ 防除指針：43～46ページ参照

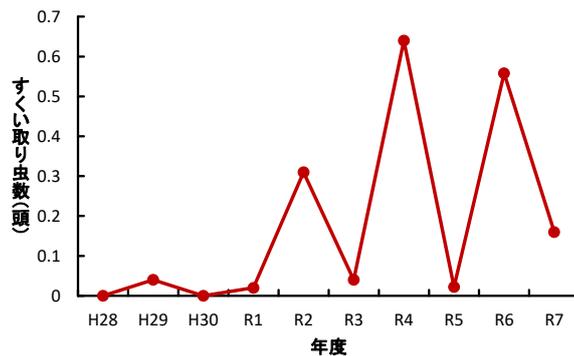


図8 クモヘリカメムシの本田すくい取り状況
年次推移（8月20日調査）



図9 クモヘリカメムシ

6 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査のすくい取り虫数は49.4頭で、平年（17.3頭）より多かった。（+）
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：40ページ参照



図10 ツマグロヨコバイの
雌成虫（上）と雄成虫（下）

7 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は13.8頭で、平年（71.1頭）より少なかった。（-）
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：41ページ参照

Ⅱ 大豆

1 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。
(+)
 - ・ 9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 多湿ほ場で発生が多いので、溝の手直しや排水溝の掘り下げなど排水対策を徹底する。
 - ・ 刈遅れは発病を助長するので、適期刈取を徹底するとともに、収穫後は速やかに乾燥する。
 - ・ 防除指針：55 ページ参照



図11 紫斑粒

2 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の払い落とし虫数は0.82頭で、平年(0.27頭)より多かった。(+)
- (3) 防除対策
- ・ 払い落とし調査を行いほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期(9月上旬頃)までに防除する。
 - ・ 防除指針：58 ページ参照



図12 フタスジヒメハムシ成虫

3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の寄生株率は2.9%で、平年(2.6%)並であった。(±)
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。
(+)
 - ・ 9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：57 ページ参照



図13 葉に寄生するアブラムシ

4 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月5半旬～7月2半旬の第一世代成虫の誘殺数は
 平年よりやや少なかった。(－)
- ・フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の第二世代成虫の誘殺数は
 115頭で、平年(189頭)よりやや少なかった。(－)
- ・9月29日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・防除指針：58 ページ参照

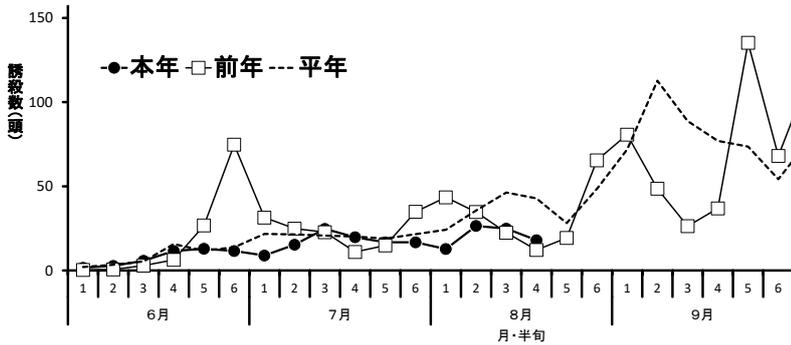


図 14 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数の推移



図 15 ハスモンヨトウ幼虫

5 大豆吸実性カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・8月25日調査の払い落とし虫数は0.36
 頭で、平年(0.15頭)より多かった。
 (＋)
- ・9月29日にかけての気温は高いと予想
 されている。(＋)
- ・9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・病害虫発生注意報第6号参照、防除指針：57 ページ参照



図 16 ダイズ吸実性カメムシ類
 (左)イチモンジカメムシ、(中)トゲシラホシカメ、
 (右)ホソヘリカメムシ



図 17 吸実性カメムシ類による被害粒

6 ハダニ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 8月25日調査の被害株率は42.9%で、平年（14.5%）より高かった。（+）
- ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- ・ 9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・ 高温・乾燥条件下では短期間で増殖し、被害が多発する。ほ場でハダニの被害が確認され、高温・乾燥条件が続くと予想された場合は、薬剤による防除を行う。
- ・ 防除指針：56 ページ参照



図18 ハダニ被害葉

Ⅲ 野菜

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる6月5半旬～7月2半旬の第一世代成虫の誘殺数は平年よりやや少なかった（図14）。（-）
- ・ フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の第二世代成虫の誘殺数は115頭で、平年（189頭）より少なかった（図14）。（-）
- ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：70～127 ページのハスモンヨトウの項参照

2 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる7月6半旬～8月4半旬の誘殺数は、タマナヤガが31.3頭で平年（30.5頭）並、カブラヤガも73.3頭で平年（60.2頭）よりやや多かった。（+）
- ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に除去する。
- ・ 定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・ 防除指針：71～131 ページのネキリムシ類の項参照

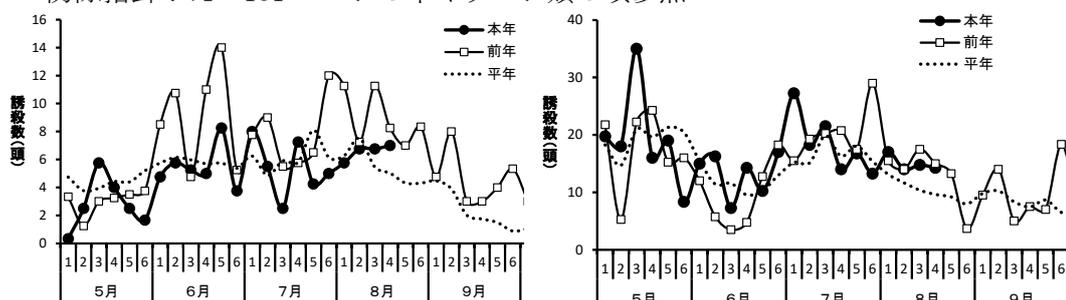


図19 フェロモントラップへのタマナヤガとカブラヤガの誘殺数の推移
(左：タマナヤガ 右：カブラヤガ)

3 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが34.3頭で平年(37.7頭)並、オオタバコガは48.0頭で平年(42.8頭)並であった。(±)
- ・9月29日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・病害虫発生予察注意報第4号、防除指針：69～130ページの野菜のタバコガ類の項参照

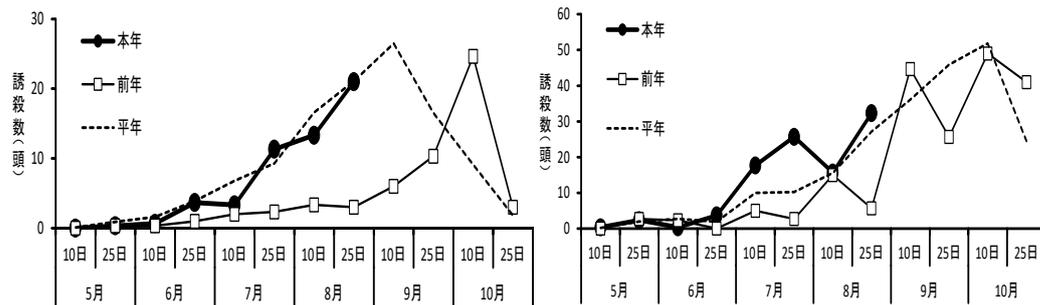


図20 フェロモントラップによるタバコガとオオタバコガの誘殺数の推移
(左：タバコガ 右：オオタバコガ)

4 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・8月25日調査の発病株率は0%で、平年(0.6%)並に低かった。(－)
- ・9月29日にかけての気温は高いと予想されている。(－)
- ・9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・気温が下がってくると発病が増加するので、定期的に予防剤を散布するとともに、発生がみられた場合は治療剤を散布する。
- ・防除指針：99ページ参照



図21 さび病の葉の病徴(夏孢子)

5 白ねぎの軟腐病

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の発病株率は2.4%で、平年(1.2%)より高かった。(＋)
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 多湿は場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
 - ・ 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
 - ・ 薬剤散布は発生初期の防除に努め、必ず展着剤を加用して、株元まで薬液が十分に付着するよう丁寧に散布する。
 - ・ 防除指針：100 ページ参照

6 白ねぎの黒斑病・葉枯病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の発病株率は8.0%で、平年(11.7%)よりやや低かった。(－)
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ さび病やネギアザミウマ、ネギハモグリバエ等の病虫害の被害は本病の発生を助長するため、他の病虫害を含めて薬剤防除を計画的に実施し、葉先枯れの防止に努める。
 - ・ 防除指針：99 ページ参照



図 22 黒斑病被害葉

7 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の被害株率は61.6%と平年(49.1%)より高かった。(＋)
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 被害が多くみられる場合は、散布剤で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
 - ・ 病虫害発生予察注意報第5号、防除指針：101～102 ページ参照



図 23 ネギアザミウマ被害葉

8 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の被害株率は0%と平年（15.0%）より低かった。（－）
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
 - ・ 9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）



図24 ネギハモグリバエの産卵痕（左）と幼虫による被害（右）

- (3) 防除対策
- ・ 被害が多くみられる場合は、散布剤で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
 - ・ 防除指針：100～101 ページ参照

9 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数は272頭で、平年（111頭）より多かった。（＋）
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
 - ・ 9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）



図25 中齢幼虫（左）と被害葉（右）

- (3) 防除対策
- ・ 病害虫発生予察注意報第7号、防除指針：102 ページ参照

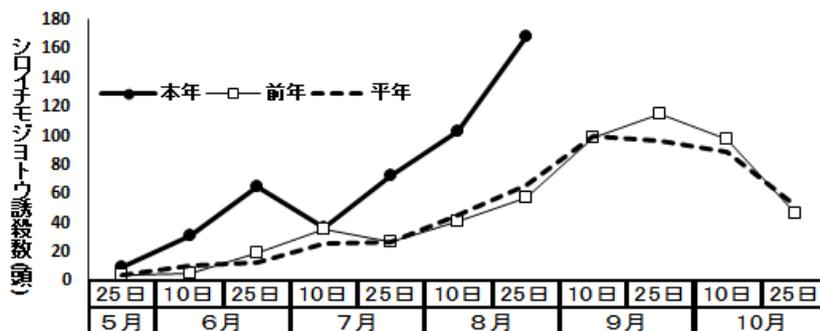


図26 フェロモントラップにシロイチモジヨトウ誘殺数の推移

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は2.3頭で、平年(18.1頭)より少なかった。
- (一)



図27 チャバネアオカメムシの成虫(左)と卵(右)

- (3) 防除対策
- ・発生状況に注意し、園地への飛来がみられる場合は効果の高い薬剤(ネオニコチノイド系、有機リン系殺虫剤等)を散布する。
 - ・防除指針：りんご 142、145～146 ページ、日本なし 153、156～157 ページ
ぶどう 163 ページ、かき 165、167～168 ページ参照

2 りんごの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量はやや少なかった。
- (一)
- ・9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)



図28 葉の初期病斑(左)進行した病斑(右)

- (3) 防除対策
- ・台風等風雨後や長雨が予想される場合には、トップジンM水和剤(1,500倍、収穫前日まで)を散布する。
 - ・主枝や垂主枝から発生している新梢を適宜整理するとともに、枝つりや支柱入れを行い薬剤の到達性を高める。
 - ・防除指針：137～140、144～145 ページ参照

3 りんごの炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量はやや少なかった。(一)
 - ・9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)



図29 炭疽病のり病果

- (3) 防除対策
- ・り病した果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、オーソサイド水和剤 80(800倍、収穫前日まで)を散布する。
 - ・防除指針：137、139～140、144～145 ページ参照

4 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は多かった。(＋)
 - ・9月29日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

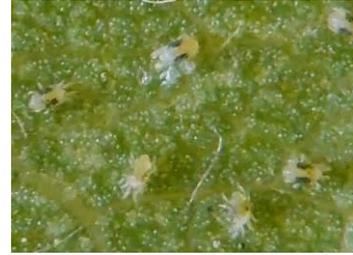


図30 ナミハダニの成虫

- (3) 防除対策
- ・園地の草刈りを定期的実施し、下草での増殖の低減に努める。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
 - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統・薬剤は年1回の使用とする（アカリタッチ乳剤は除く）。
 - ・防除指針：142～143、145～146 ページ参照

5 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**少ない**
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は少なかった。(－)
- (3) 防除対策
- ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：141～142、145～146ページ参照



図31 カイガラムシによる被害果

6 りんごのシンクイムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月3半旬の誘殺数は86.1頭で平年(21.1頭)より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
- ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：142、145～146ページ参照

7 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は平年よりやや少なかった。(－)
 - ・9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)



図 32 黒星病のり病果

- (3) 防除対策
- ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地は、収穫後にオーソサイド水和剤 80 (1,000 倍、収穫 3 日前まで) を散布する。
 - ・防除指針：149～152、155 ページ参照

8 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる 7 月 4 半旬～8 月 3 半旬の誘殺数は 1.9 頭で、平年 (0.7 頭) より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
- ・被害葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、9 月上中旬にアグロスリン水和剤 (2,000 倍、収穫前日まで) を散布する。
 - ・防除指針：149、152～153、156～157 ページ参照

9 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる 7 月 4 半旬～8 月 3 半旬の誘殺数は 25.3 頭で平年 (6.6 頭) より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
- ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、アグロスリン水和剤 (2,000 倍、収穫前日まで) を散布する。
 - ・防除指針：149、152～153、156～157 ページ参照

10 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年より多かった。（＋）
 - ・9月29日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
 - ・9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
 - ・園地の草刈りを定期的に行い、下草での増殖の低減に努める。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
 - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統・薬剤は年1回の使用とする（アカリタッチ乳剤は除く）。
 - ・防除指針：153～154、156～157ページ参照

11 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は少なかった。（－）
- (3) 防除対策
 - ・防除指針：152～153、156～157ページ参照



図33 ナシマルカイガラムシによる被害果

12 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量はやや少なかった。（－）
 - ・9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
 - ・り病した果房や葉などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生がみられた際は、銅水和剤又は硫黄・銅水和剤（収穫前日数は制限なし）を散布する。ただし、高温時に散布すると、薬害が発生するおそれがあるので注意する。
 - ・防除指針：159～162ページ参照

13 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月3半旬の誘殺数は62.0頭で、平年（96.5頭）よりやや少なかった。（－）



図 34 フジコナカイガラムシの雌成虫

- (3) 防除対策
- ・発生の多い園地では、コルト顆粒水和剤（2,000～3,000倍、収穫前日まで）を散布する。
 - ・防除指針：165、167～168ページ参照

14 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は少なかった。（－）
 - ・9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・病原細菌の越冬密度を低下させるため、9月中旬～下旬にICボルドー412（30倍）を2回散布する。
 - ・台風等強風が予想される場合は、事前にICボルドー412（30倍）を散布する。
 - ・防除効果を高めるため、散布前に秋季せん定を実施する（作業終了後、速やかに切り口に保護殺菌剤を塗布する）。
 - ・防除指針：170～171、173ページ参照

15 ももの灰星病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は少なかった。（－）
 - ・9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）



図 35 灰星病のり病果

- (3) 防除対策
- ・樹上又は地面に落果している被害果は、被害果内で病原菌が越冬し、翌年の伝染源となるので、見つけ次第速やかに園外に持ち出し処分する。
 - ・防除指針：170、172～173ページ参照

V 花き・球根

1 きくのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の1葉虫数は0頭で、平年(0.1頭)より少なかった。(－)
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：192～194 ページ参照

2 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる6月5半旬～7月2半旬の第一世代成虫の誘殺数は平年よりやや少なかった(図14)。(－)
 - ・ フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の第二世代成虫の誘殺数は115頭で、平年(189頭)よりやや少なかった(図14)。(－)
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：198～216 ページのハスモンヨトウの項参照

3 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが34.3頭で平年(37.7頭)並、オオタバコガは48.0頭で平年(42.8頭)並であった。(±)
 - ・ 9月29日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月29日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：197～216 ページのオオタバコガの項参照

令和7年度農薬危害防止運動の実施について

- 全国運動のテーマ：「使用前、周囲よく見て ラベル見て」
- 富山県の運動期間：農薬の繁用期である「4月1日～9月30日」

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

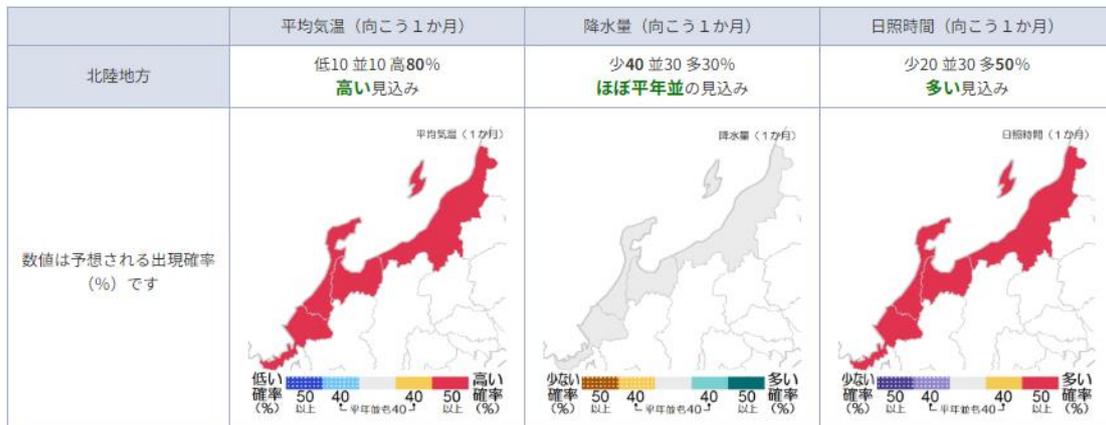
農薬は適用作物以外に使用できません。
また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組が必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。
さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 1か月予報
(予報期間 8月30日から9月29日)

8月28日
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

- ・向こう1か月も、暖かい空気に覆われやすいため、気温の高い状態が続くでしょう。特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・6月下旬以降、高気圧に覆われ、降水量の少ない状態が続いている所があります。向こう1か月は、高気圧に覆われやすいため、日照時間は多いでしょう。



富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-2111

FAX 076-429-7974

情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

